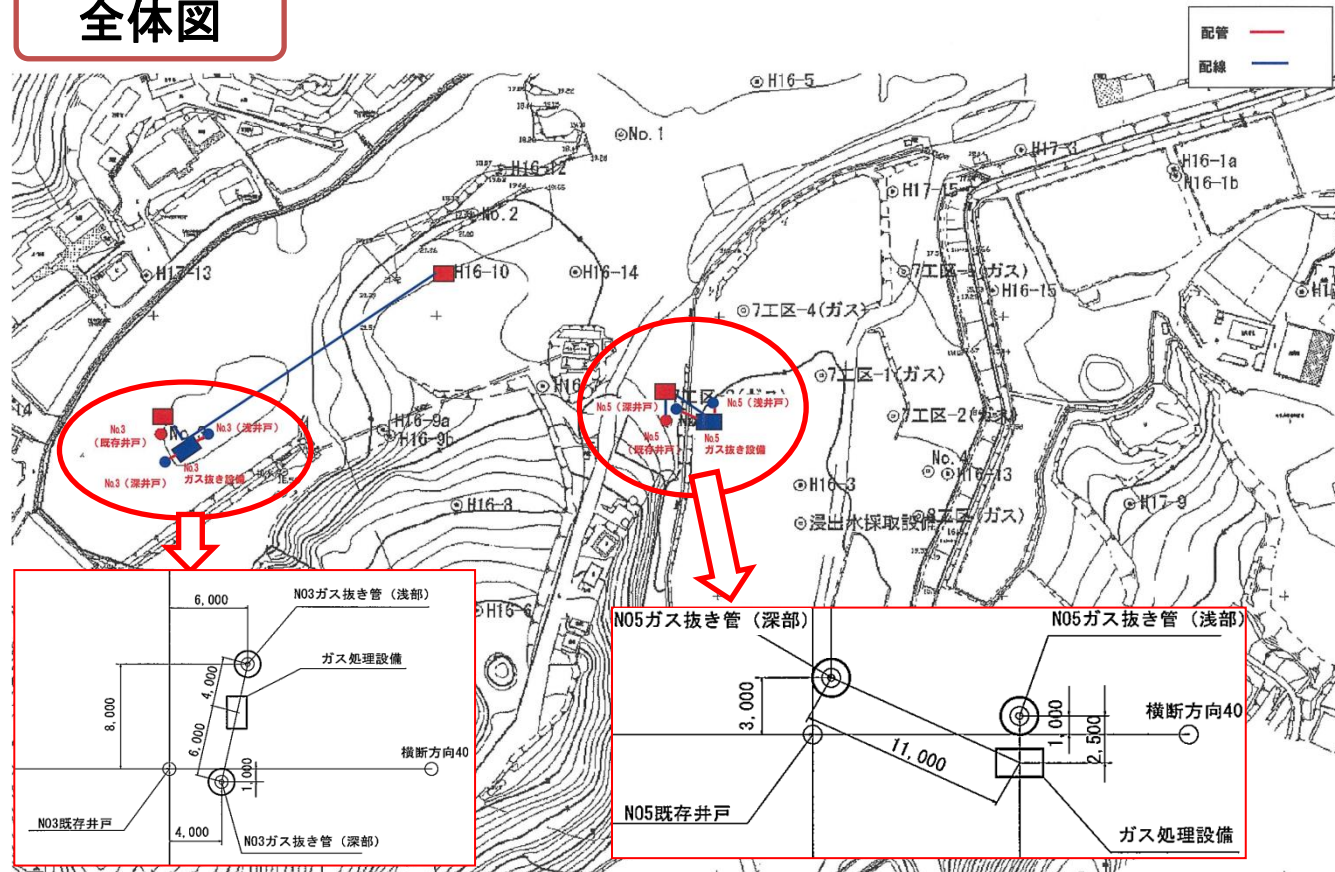


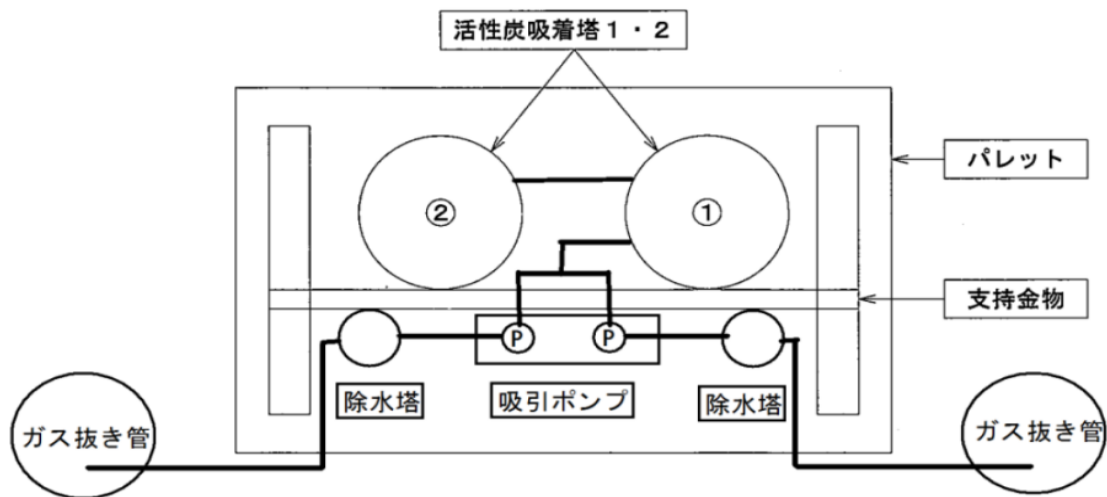
＜噴出防止工について＞

No.3及びNo.5の観測井戸にあっては、ガスが浸透水を伴って噴出する事象が時々発生しているため、ガス溜まりの解消を目的とした噴出防止の追加工事を実施した。ガス抜き管は、浅部から深部まで広くガス抜き効果がある「深部ガス抜き管」とそこから約10mの距離をとって「浅部ガス抜き管」を設置しており、各ガス抜き管にはガスを吸引するポンプを設置し、活性炭吸着処理を行ってから外気に放散する構造とした。なお、本工事は、7月16日に完了している。

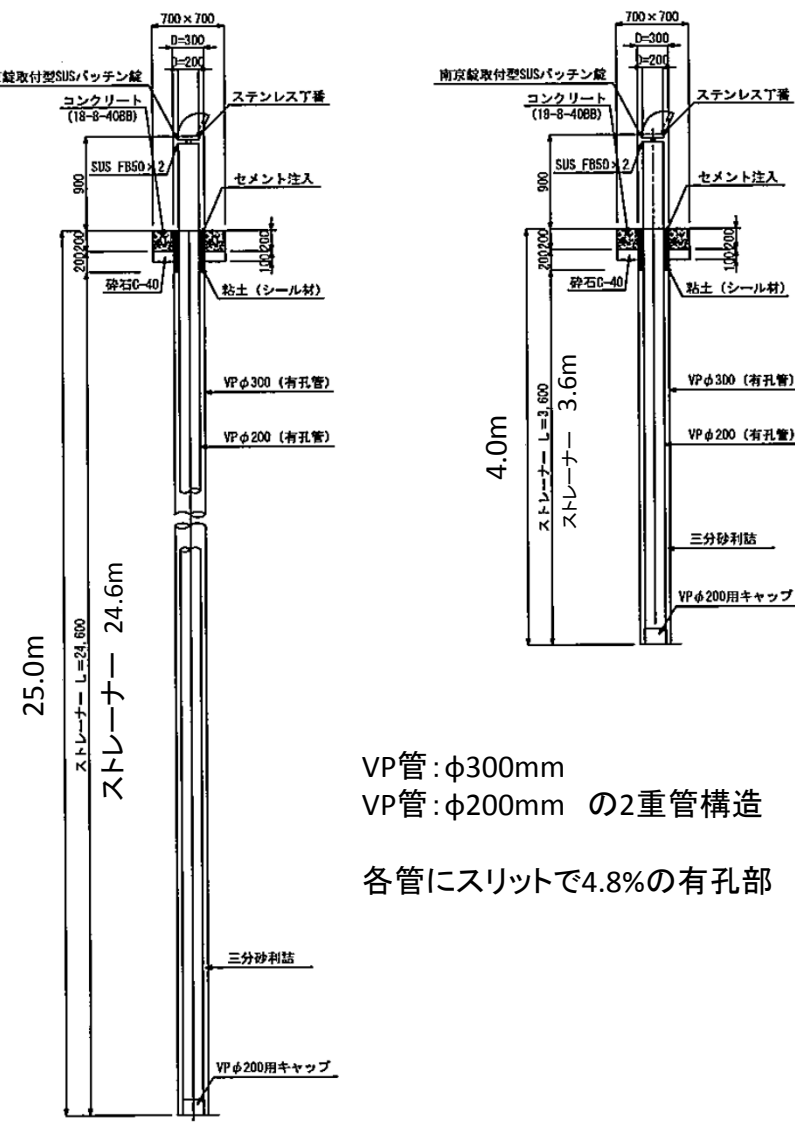
全体図



ガス処理設備



No.3

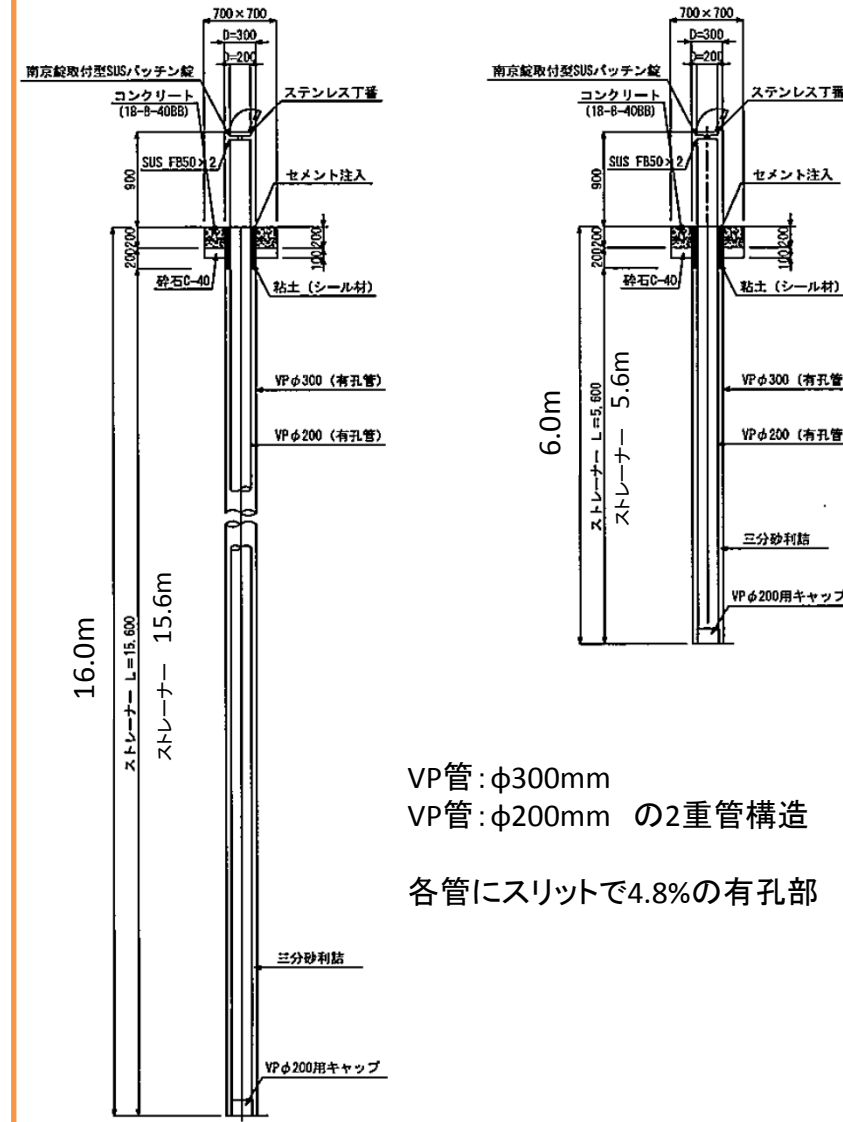


VP管：φ300mm
VP管：φ200mm の2重管構造

各管にスリットで4.8%の有孔部



No.5



VP管：φ300mm
VP管：φ200mm の2重管構造

各管にスリットで4.8%の有孔部



<ボーリングコア(廃棄物試料)分析>

○概要

No.3およびNo.5で実施した噴出防止工では、先行して調査ボーリング(掘削径φ86mm)を実施しており、本調査で得られたボーリングコア(廃棄物試料)を用いて以下の分析を実施した。

①廃棄物試料の溶出DOC※1(溶存性の有機炭素濃度mg/L)

②E260※2(紫外外部260nm/cmの吸光度)を測定

③DOCをE260で除した値(DOC/E260)を算出※

※1 DOCは、水に溶出しやすい有機物全体量

※2 E260は、微生物に分解されにくいフミン酸量(フミン酸は、ベンゼン環を多く含み、ベンゼン環は紫外線260nmで極大波長を迎えるため)

○廃棄物試料の分析方法

試料採取

右図のとおり、1m毎に採取し、深度5mを1試料となるように均等に混合

分析

試料中の水分、灰分、可燃分を測定した。

検液を作成し、溶存有機炭素(DOC)、紫外線吸光度(E260)分析を行った。

廃棄物分析結果

No.3およびNo.5の廃棄物分析結果をそれぞれ右表に示した。

<DOC/E260>

①No.3

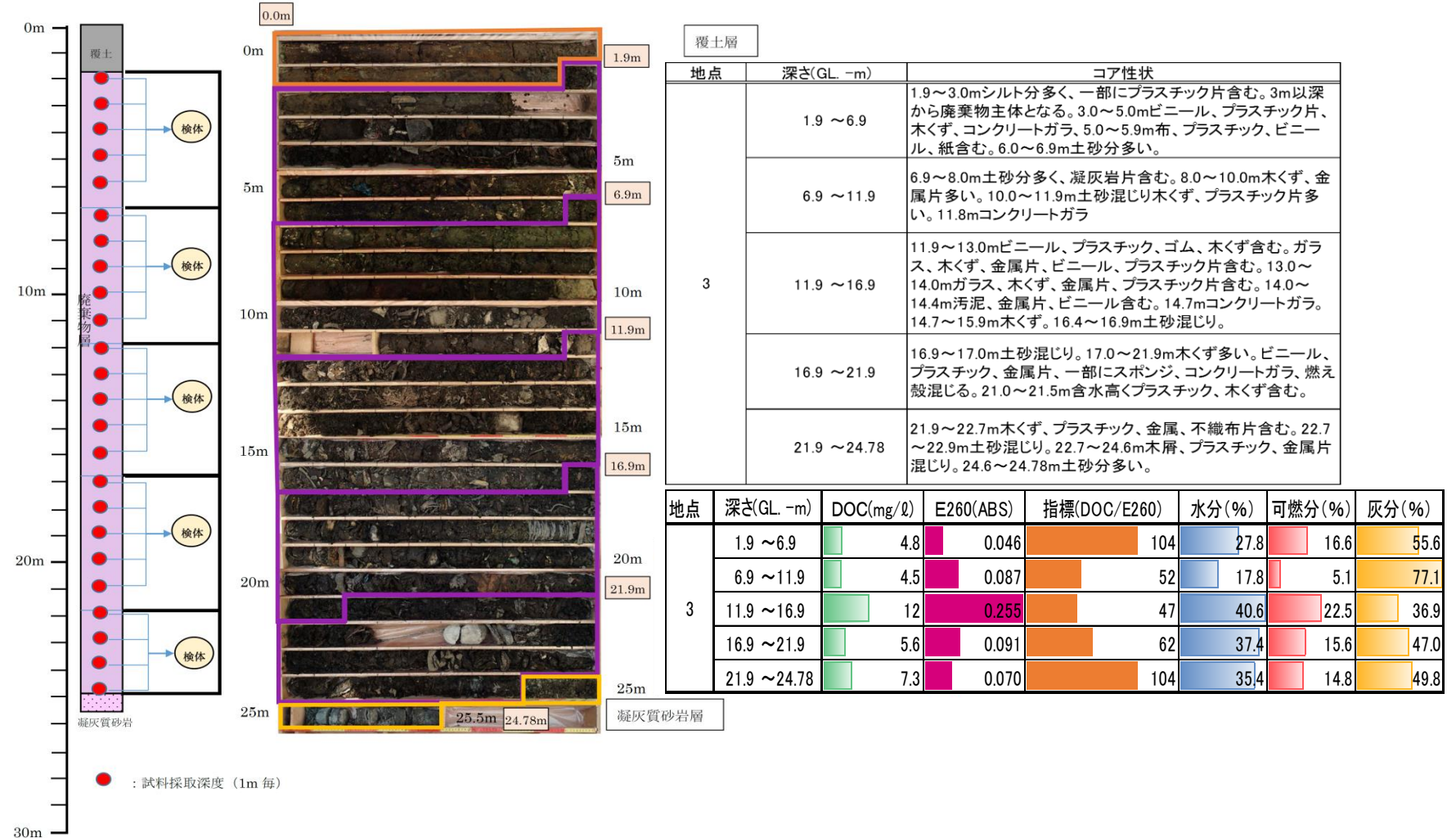
GL-11.9~16.9mは、47であった。

浅層部GL-1.9~6.9mと基盤付近GL-21.9~24.8mは104であった。

②No.5

深層部GL-10.6~15.82mは141であった。

No.3



No.5

